

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500155		
法人名	特定非営利活動法人どもにあゆむ会		
事業所名	グループホームこぶなと		
所在地	岩手県花巻市下小舟渡262-1		
自己評価作成日	平成25年5月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390500155-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390500155-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年6月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念、「幸せの追及」「笑う、ほめるde元気になる」を基に  
ユニットの目標(足腰きたえて明るい笑顔)を掲げ、利用する方の生き甲斐を  
今以上に強化し、生きる喜びや楽しみを感じてもらえるよう追及しております。  
職員には介護技術の向上のため資格取得を推奨し、勉強会の実施や  
薬剤師を招いての薬の正しい使い方等、技術向上に力を入れています。  
日頃から防災意識を高め、火災や地震等を想定し、避難誘導訓練を定期的実施しております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

花巻市小舟渡の大型量販店近く、旧国道4号線から東へ宮澤賢治のイギリス海岸に向かって約200m、閑静な住宅  
地に立地している。法人の理念、事業所の目標の見直しを図り、「笑い」を介護の基本に据えて利用者の生きがい  
作り、生きる喜びを感じることが出来るように支援をしている。管理者の前向きな考え方や人柄の良さから、事業所  
全体の雰囲気や穏やかで、職員も「受けるより与える幸せ」をモットーしていることが感じられる。また、職員に対し  
ては、失敗を恐れず、それを次のステップに活かすこと、定時勤務を守るように、など働きやすい職場環境作りに努  
めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に年度目標を決め、ホールの見やすいところに掲示し、毎朝唱和している。	法人の理念、事業所の目標「笑う」を基本に据え、見直しを図った。これを掲示するとともに、朝出勤者全員で唱和し、内容を確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の園児との交流や、地域のボランティアによる慰問の受け入れ、公民館の文化祭等、積極的な交流を図っている。	同法人が運営している保育園の園児たちの訪問が時々あり、サツマイモ植えを利用者と一緒に行なうなど交流が持たれている。東和町にお住いの男性の方が、毎週来訪され、歌や三味線の演奏をしてくれたりと、楽しいひと時を過ごすようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やグループホームを理解して頂くために地区の公民館主催のイベントに参加したり、神社の祭りに出向いたりして交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、施設の活動状況を報告している。市の職員、包括支援センターの職員、民生委員等をメンバーとして実施している。会議では利用状況等を報告し、運営の適切さを計ってもらう場となっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所内の様子などの説明の後、その時々話題について話し合いを行い、サービスの改善に役立っている。	会議には、運営推進会議の委員の他に会議のテーマに応じ、警察署員や消防署員などをお呼びし、地元の防犯や防災等の情報を話していただく等、幅広い内容を話し合っていてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市の担当者に出席していただき、具体的なアドバイスをもらっている。	介護のあり方や身体拘束などについては市の担当者から指導をいただく等している。研修会や個別相談にも対応して頂き、アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠をしておらず、夜間のみ鍵を掛けている。利用者の外出には見守りで対応し、近隣の散歩により、近所の人たちも顔を覚えてくれている。身体拘束の勉強会により、職員全員が理解している。	身体拘束のない介護を目指している。夜間は防犯上施錠しているが、それ以外は開放的に、自由に行動できるようになっている。その工夫について職員間で研修を重ね、理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待の勉強会により、施設内での介助にそのような対応がないか常に確認し、発生防止に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームこぶなと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルや勉強会を通じて、権利擁護に関する制度を学び、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に料金やサービス内容を十分に説明し、理解を求め、納得したうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には居室担当者が決められており、家族の来訪時に意見や要望を聞き、スタッフ会議にかけ、対応するようにしている。	職員1名で、1～3名の利用者を担当している。利用者の一人ひとりをきめ細かく見て記録し、家族にわかりやすく説明出来るようにしている。また、家族からの要望事項については、スタッフ会議に諮り、実施(実現)するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアや、イベントの計画では、職員から様々なアイデアが出され、当初の予定よりも盛大な実施に結びついている。スタッフ会議では、職員の自由な発言が聞けるような雰囲気作りをしている。	スタッフ会議は月1回開催し、他に各委員会(食事、レク、レベルアップ)も開催し、意思の疎通とサービスの改善を図るようにしている。会議などを行なう場合、勤務者以外は残業手当で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会(食事検討、レク、レベルアップ)を設け、職員のやる気と、意見や提案を自由に出せる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に参加する機会を設け、参加後は会議などで報告している。また、勉強会を開催し、実践に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、花北ブロック会議に参加しており、他施設との交換研修等で情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行う際には、家族からだけではなく、本人からも困っていること、不安なことや要望などに耳を傾け、気持ちを確かめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には、サービス内容について家族と相談し、開始後も家族と連絡を取り合い、来訪時には情報を伝え、要望等を引き出すよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前のアセスメントに重点を置き、他のサービスを視野に入れながら本人・家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の食事の食器拭きや、お膳拭き、テーブル拭き等を職員と一緒にやり、色々な会話を通し、共に支えあいながら生活環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した際には常に近況を報告する時間を作り、本人とのコミュニケーションの場を設け、本人と家族との時間を作るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方が訪ねてきた際は、一緒に写真を撮り、部屋に飾るなどしている。また、地域の方との歌の交流を楽しむ等、これまで大切にしてきたものの関係継続の支援に努めている。	事業所として町内会に加入し、各種地域行事等には積極的に参加することとしている。地域のボランティアの方も受け入れ、歌や三味線の演奏を聴くなど変化のある生活が出来るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方がホールにすることが多く、常に一緒に活動する交流の場を設けている。孤立している利用者には職員が間に入り、声掛けを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりサービスが終了した場合でも、職員による見舞いや、次の受け入れ先の相談に乗ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの言葉や、行動での訴え、また、職員から見て好きな事、嫌いな事の意向を見極め、利用者本人の意向に沿った生活が送れるよう心掛けている。	利用者が「平穏で、元気で、楽しく毎日を普通に過ごせるように」をモットーに支援するよう努めている。そのため、ことばに出ない思いを仕草や表情から読み取るように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の情報を基に、特に利用者家族との会話から、これまでの暮らし方の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行っている。また、個別機能訓練や、レク活動を通じ、身体機能の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を大切に、毎月のスタッフ会議で意見を出し合い、介護計画に反映させている。また、家族が来訪された時には現状を報告し、意見・要望を聞いている。	スタッフ会議で出されたことについて話し合い、その結果をケアプランに活かし、実施に移すようにしている。また、居室担当者はもちろんのこと、利用者担当以外のスタッフも積極的に意見を言えるような環境作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記入している。また、職員間での引継ぎ時の申し送りや、ノートを使つての情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も把握し、利用者一人一人に合わせたサービスを提供できるように取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームこぶなと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暖かな日は、近所の神社や堤防までの散歩を日課としている。近くの回転寿司などへ外出に出かけたりすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応での受診の際は、情報提供書を作成し、施設での様子が医師へ確実に伝わるようにしている。	かかりつけ医への受診は原則家族が行なうとしているが、希望により事業所でも対応することもある。職員が同行するときは日頃の生活の様子やバイタルなど記入した情報提供書を持参することとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の訴えや、職員が気づいた変化は看護師に報告し、適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師や医師との情報交換のため、病院へ足を運んでいる。利用者にとって最善の状態を維持できるよう家族、病院関係者と何度も話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、今後、事業所で取り組んでいくという方向性を家族に伝えている。医療機関との連携は今後の課題としている。	医療行為を伴うような介護は訪問医療や看護が地域的に不完全なことから難しいと考えている。その他の重度化への対応、ターミナルケアについての対応についてはそのあり方について検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の方を呼んで、人工呼吸の仕方、AEDの使い方などの勉強会を行っている。また、緊急連絡網や緊急時マニュアルは目立つところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加しての避難訓練を実施している。地域の方々にも見守りなどの協力をお願いしている。	地域の方々の協力の下、避難訓練を実施している。4月には消防署員に来ていただき、避難訓練を行っている。消火訓練や心肺蘇生の講習も行われている。今後は水害対応についての避難訓練を行なうなどの計画を持っている。	スプリンクラーは未設置であるが近々設置予定になっている。年1回は薄暮時に近所の住人参加のものと避難訓練の実施がなされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ありがとうございます」「おかげ様でした」など、自分が言われて嬉しくなるような言葉掛け、対応に努めている。トイレ誘導などはそれぞれの利用者に合わせて声掛けを行い、パットの確認などは人目につかないよう気を付けている。	トイレ、入浴など羞恥心を伴う介護にあたっては、最大限本人の気持ちを大切にするという姿勢で行なっている。特に言葉の使い方、介助の仕方などに気が配られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	習字・筆ペン・お花・縫い物・計算・パズル読書など、利用者が趣味を持った事に参加できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレク活動、入浴日と、その日一日の流れを強制することなく、本人の希望を聞き入れながら一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋・化粧品などは本人の希望通り家族や職員が支援している。衣類は家族や職員と好みのものを買いに行ったり、その日着る服を職員と相談しながら選ぶなど、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬なものを取り入れた料理で、季節感、彩りなど工夫された食事を提供している。誕生日には希望のメニューとし、楽しんでいただいている。食事の準備や片づけも利用者と職員で一緒にやっている。	食材は出来るだけ地元産のもの、旬のものを使うようにし、また、利用者の食べたいもの、例えば、寿司、刺身などを食事に取り入れるように配慮がなされている。一人ひとりの咀嚼に合わせ、食べ易いように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や好みを把握し、体調管理、体重管理に気を付けている。散歩後や入浴後など定時の水分補給時以外にも声掛けをし、摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力でできる方には声掛け、介助が必要な方には出来るところはしてもらい、手伝いが必要なところは解除しながら口腔ケアを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームこぶなと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けをしている。いつもと違う変化が見られた時は要観察とし、見守り支援を行う。	利用者によって自立の人、夜間だけパットの人など様々であるが、それぞれの排泄パターンを把握して失敗によって自尊心を傷つけることの無いよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク時に便秘体操を取り入れたり、朝食時にヨーグルトなどを提供している。便秘傾向の利用者には、トイレ移動時に腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、体調や希望、バイタルチェックなどで調整を行っている。会話をしながら利用者が楽しく気持ちの良い支援を心掛けている。	バイタルチェックのもと、1日おきに入浴を楽しむことが出来るようになっている。浴槽は2名で介助しやすいような構造になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールのテーブルやソファでウトウトしている利用者には声を掛け、居室誘導したり、そのままソファで休んでもらう等している。夜間は個々に安眠できるように室温、照明、物音などに気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬について理解を深め、うまく服用できない方にはスプーンを使ったり、トロミ剤や、ジャムを使うなど工夫をしている。服用後の症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下膳、食器拭き、テーブル拭きや、モップ掛け、洗濯たたみなど、一人一人のできることを手伝っていただきながら、生活意欲を高める支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、花見、施設外の交流会への参加などの行事を計画実施している。個別対応で職員との買い物やドライブで気分転換を図ることもある。	日常的な散歩などは安全に自由に出来るように支援している。また、外出する機会を多く行事に取り入れ、回転すし店、和風レストランなどの外食のほか、お花見、バラ園の見学なども組み込まれている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームこぶなと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者には、希望により買い物できることを伝え、必要なものがある場合は、施設の一時立替などで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や状況に応じて、不安なく電話などが出来るよう、口添えなどを交え、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾りつけを行ったり、廊下などの掲示スペースに行事のスナップ写真などを貼り出している。	やさしく、ぬくもりを感じる事の出来るように木材を多く使ったりリビングと居室で、明るさ、室温とも適度で、利用者は普段はリビングに集っているなど居心地の良い生活が出来るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置替えを考慮したり、ソファや座布団、毛布の利用など、より快適な空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や日頃慣れた日用品などを入居の際に持ち込んでいただいている。利用者の作品や、行事写真なども飾っている。	居室への私物の持込みは自由で、家族の写真、行事のときのみんなでのスナップ写真などを壁に貼ったり、自分で作った作品を飾ったりしている。またテレビを持って来ていらっしゃる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の手摺りは利用者の自立と、動きのサポートとなっている。また、居室入口に名前と顔写真や目印を付けるなど、心配の軽減をしている。		